

第 36 回全日本高等学校チアリーディング選手権大会 開幕

JOC ジュニアオリンピックカップ大会／第 36 回全日本高等学校選手権大会は、1 月 24 日（土）から 2 日間、国立代々木競技場第一体育館で行われる。

自由演技競技ディビジョン 1 は、今年から女子部門と男女混成部門に分かれ、両部門優勝チームのうち、得点が高い方が総合優勝、真の「高校日本一」となる。昨年度は各校が素晴らしい演技を披露し、激しい優勝争いの末に梅花高等学校（大阪府）が 6 大会ぶりに優勝。今回は男女混成部門で演技する前回大会 2 位の如水館高等学校（広島県）、2 大会ぶり優勝を目指す箕面自由学園高等学校（大阪府）とともに今大会の意気込みを聞いた。

【梅花高等学校】

あの興奮を、あの感動を、もう 1 度、味わいたい。

大会 2 連覇を目指す梅花高等学校を訪れたのは、年が明け、しばらく経ってからだった。

本番まで刻一刻と迫っていた。

コーチに声をかけると、こんな言葉が返ってきた。

「悔しい思いを、みんなにして欲しくないんです。みんなが悔し涙を流すということは保護者の方々や、歴代 OG も泣かせることになるんです。勝って恩返しをしたい。できるなら、勝って、みんなで嬉し涙を流したいと思っています。残りの時間で、もっともっと、完璧な演技に仕上げたい」

今から、ちょうど 1 年前。

梅花高等学校はトップが横に 3 回転してミドルの上に立つトリプルアップを 3 本成功させ、高校の頂点に立った。

そして、代が変わった昨夏の JAPAN CUP 日本選手権でもトリプルアップ 3 本に挑み、準決勝、決勝とノミスの演技をしながら結果は準優勝。

「演技をやり切って、それでも（日本一に）届かなかったということは、向こう（優勝校）の方が上手いということ。だからこそ、実力不足を痛感しましたし、より一層、悔しい思いをさせてしまった」

そう、コーチは振り返っている。

今大会もまた、梅花高等学校は演技構成にトリプルアップを 3 本、組み込んでいるという。

昨年度の全日本高等学校選手権でトリプルアップを成功させた 3 年生のトップは「（ミドルの腕の）上ではめられるように、減点ゼロの演技を目指しています。平場もみんなが揃うように、練習をしてきました。絶対に日本一になりたいです」3 年生にとっては、この大会が高校最後の演技となる。

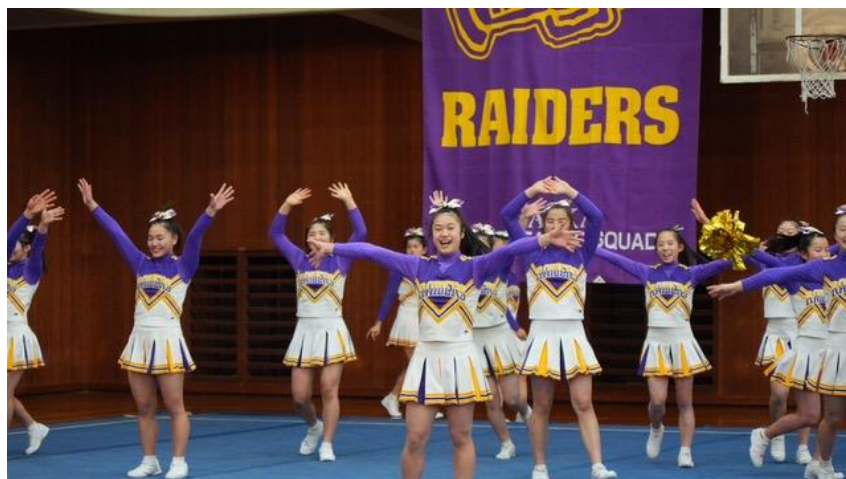


キャプテンはこんな思いを抱いている。

「私たちは昨年、優勝を経験することができました。まだあの景色を見たことがない後輩たちに、日本一の景色を見せてあげることが、私たちが最後にできることだと考えています」

トリプルアップだけではない。梅花オリジナル技も披露し、会場全体を魅了してくれることだろう。

全力で2分30秒の演技をやり切った先に、大会2連覇という勲章があるはずだ。



【箕面自由学園高等学校】

2大会ぶり優勝を目指す箕面自由学園高等学校は、夏のJAPAN CUP日本選手権に続く2冠が懸かる。

大会に向けた準備期間が限られる中で、着々と本番に向けた準備を進めている。

演技内容について、コーチはこう明かしている。

「ジャパンカップから大きな変更点はありません。曲が違うのでイメージが変わっているように感じますが、基本的な演技構成は同じです」



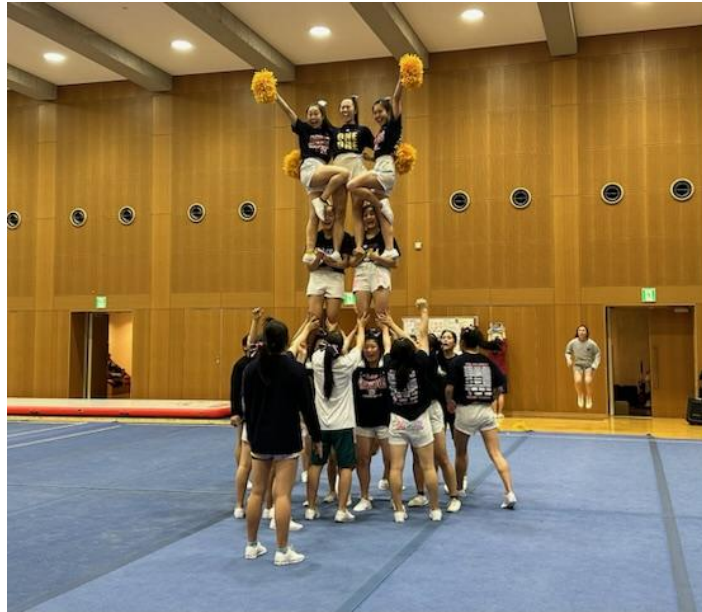
昨年6月の関西選手権大会では演技にトリプルアップを4本組みこんだが、8月末のジャパンカップでは2本にしている。トリプルアップを4本実施するかどうかについて、同コーチは「大会演技のための準備期間が少なかったので、4本に戻すかどうかは最後まで悩むと思います」と話すに止めた。

大会には3年生も出場するが、既に世代交代をしており、2年生の新キャプテンは3位に終わった1年前の大会をこのように振り返っている。

「昨年はノーマスではありましたが、自分たちがやりたかった演技ではなかった。負けを実感した大会でした。今でも思い出したら辛くなります。残り時間で、

勝つための練習をしていきたいと思います」

同じく2年生の副キャプテンも「最後の曲はノリノリ系なので、見てくださるお客さんにも楽しんでもらいながら、絶対に日本一を取り戻したいです」と語った。



【如水館高等学校】

男女混成部門からディビジョン1 総合優勝を目指している。昨年度の全日本高等学校選手権は、優勝した梅花高等学校に続く2位で、昨夏のジャパンカップは3位。常に優勝争いに加わりながら、あと1歩で日本一を逃し続けてきた。今大会は16人のうち、3人の男子選手を起用する予定。力強さと、躍動感はトップレベルの実力を兼ね備えている。

演技構成について、コーチはこう話している。

「2曲目が盛りだくさんで、ポンポンと湧き出るような演技にしています。男子選手がいるからこそできる構成で、見て下さる方々にワクワク感を伝えたいと思います」

夏とは違った演技になる見通しで「静と動」が1つのテーマ。難易度の高い技を組み込みながら、梅花高等学校や箕面自由学園高等学校と同様に、トリプルアップを組み込む可能性もあるだろう。

選手が主体となり、常に目標設定を確認する中で「日本一」は揺るぎないものになっている。

「最後まで挑戦し続けながら、演技をやり切ること。支えてくださる方や、親への感謝は、結果で伝えたいという思いをみんなが抱いていると思います」

男女混成部門を制し、その先にある総合優勝へ。

如水館高等学校は挑戦者として、日本一の扉を開く。



本サイトの記事、写真の転載はご遠慮ください。無許可の転載・複製は法律により罰せられます。

Unauthorized reproduction or duplication is punishable by law.